

統一教会の回答

総務局

「ヤコブ、モーセ路程の教訓」に対する誤った解釈を正す

(上)

今回は、『原理講論』の中で、モーセの殺人とヤコブの嘘(うそ)に関する部分を取り上げてみます。この部分はよく統一教会に反対する人たちが誤解する人により、意図的に曲解されて統一教会を攻撃するために使われる部分です。神のみことろについて語ったものを、反社会的、違法な内容を教えるものだと解釈するその人たちの意図や誤解を正していかななくてはなりません。



放蕩(ほうとう) 息子を抱きしめる父親(下レ画)

うに人に教えたりする者は、天国で最も小さい者と呼ばれるであろう(マタイによる福音書五章18、19節)と語る一方、自らは「安息日の主である」(同二章8節)と称して安息日の戒律を破ったり、「不正の富を用いてでも、自分のために友だちをつくるがよい」(ルカ一六章9節)などと教えたりしているのです。

また後に述べますが、マタイ一五章4節では「父と母とを敬え」という神の戒めを奨励しながらも、ルカ一四章26節では「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらには自分の命までも捨て、わたしのもとに来るのだから、わたしを愛するならば、わたしは、わたしの弟子となることはできない」といふなど、あたかも父母を捨てて神を愛することを奨励するかのよう語っているのです。

以上のように、経典や教理解説書の中には一見矛盾すると思われる表現が少なからず見受けられるので、その見かけ上の矛盾を解消するために「神学(言語の音書)二章51節」など、全く矛盾すると思われることを述べています。

また「律法の一点、一画もまたたきおぼやかしなく、こころよく守らるべきである」といふように、宗教的言語にはさまざまな学問的釈義問題があるにもかかわらず、反対する人たちはそのような

な段階的摂理を「原理講論」は、「サタンを屈伏」してきた全路程は、ヤコブによるその象徴路程を、象徴的に歩まなければならない(モーセ路程と、それを具体的に歩まなければならないイエス路程とを、あらかじめ示した典型路程であった(三三二二)と記述しています。したがってあくまでもヤコブ路程は象徴型(蘇生型)、モーセ路程は形象型(長成型)摂理なのであり、イエス路程に至って初めて実体型(完成型)摂理として展開されたといふので、したがってヤコブやモーセが歩んだ路程とは、どこまでも象徴的・形象的な表現において原始的・神話

「……イスラエル民族を通してなされた神の啓示が、今日から見て多くの欠陥をもっていることは否定することができない。その啓示を展開されたことを意味するのである。われわれが旧約聖書を年代順に注意して読むならば、その思想にも、道徳にも、信仰にも、低きより高きに、物質的より精神的に、肉体的より霊的に進歩発展していった跡を認めることができるであろう。けれどもなお、旧約だけの範囲では神の啓示も、結局、人間の人格思想、道徳の不完全性によって制限されるを得なかつた。

もちろん、これは神の知識思想が進歩発展したことを意味するものではなく、神が選民イスラエルの知的・宗教的發展に伴ってその啓示を展開されたことを意味するのである。われわれが旧約聖書を年代順に注意して読むならば、その思想にも、道徳にも、信仰にも、低きより高きに、物質的より霊的に進歩発展していった跡を認めることができるであろう。けれどもなお、旧約だけの範囲では神の啓示も、結局、人間の人格思想、道徳の不完全性によって制限されるを得なかつた。

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

愛による天国建設目指す 強制や暴力的手段では不可能

宗教の経典の多くは矛盾内包が、ヤコブやモーセ路程の『原理講論』の解説を引用して、あたかもそれが統一原理の教えであり、統一教会が殺人や略奪行為、またはヤコブの嘘などを正当化しているがごとく主張し、統一教会が反社会的行為を教理上において奨励していることを主張しています。それはまさに自分たちの不当な訴えを正当化するために、意図的に曲解した解釈にほかなりません。それらの人たちは、宗教書における言語にはさまざまな問題があることを全く無視しています。そもそも宗教における経典(教祖の言葉を含む)や教理書には、一見矛盾すると思われる表現が数多く見いだされま

「あなたたちは、わたしが平和をこの地上にもたらすために来たと思つていて……; そうではない。むしろ分裂である(ルカによる福音書二二章51節) など、全く矛盾すると思われることを述べています。また「律法の一点、一画もまたたきおぼやかしなく、こころよく守らるべきである」といふように、宗教的言語にはさまざまな学問的釈義問題があるにもかかわらず、反対する人たちはそのような

な段階的摂理を「原理講論」は、「サタンを屈伏」してきた全路程は、ヤコブによるその象徴路程を、象徴的に歩まなければならない(モーセ路程と、それを具体的に歩まなければならないイエス路程とを、あらかじめ示した典型路程であった(三三二二)と記述しています。したがってあくまでもヤコブ路程は象徴型(蘇生型)、モーセ路程は形象型(長成型)摂理なのであり、イエス路程に至って初めて実体型(完成型)摂理として展開されたといふので、したがってヤコブやモーセが歩んだ路程とは、どこまでも象徴的・形象的な表現において原始的・神話

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

怨讐を無条件で愛し サタンを自然屈伏

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

「統一教会の教えの中心は「愛と許し」」

配置薬営業社員募集!
女性営業アルバイトも同時募集

活気、感動、可能性
これが当社の3Kです

- 教育期間4か月間の給与保障
- 職種/営業(固定得意先)
- 資格/18~35歳位まで(応相談)
- 勤務/品川・大田・北・葛飾・中野
- 給与/固定給+歩合給
- 待遇/各種手当、社保完備、年昇1賞2

日本配置薬株式会社 東京都品川区上大崎3-7-4第一昭和ビル
TEL:03-3442-3241 担当: 樋水まで

統一教会の回答

総務局

「ヤコブ、モーセ路程の教訓」に対する誤った解釈を正す (下)

『原理講論』のモーセの殺人とヤコブの嘘(うそ)に関する記述は、しばしば統一教会に反対する人たちによって意図的に曲解され、統一教会を攻撃するために使われる部分です。先回は、「統一原理の教えの中心は怨讐(おんしゅう)を愛して、サタンを自然屈伏し、神様の世界を復帰することである」という観点から述べましたが、今回は具体的にヤコブとモーセの路程をたどりながら、背後に隠された神様の摂理に迫ります。

そのような家庭の人には、自然に万物が懐かしく思いついてくるので、その人には豊かな生活をするなどといったことも、豊かな生活ができるのです(四〇日研修教材シリーズ『神を中心とする生活』一八五頁)という文鮮明先生の説教のように、本来の神との関係を復帰した人間は、万物に対する主権性を復帰すること(万物の復帰)ができるというのです。

したがって本来の「万物の復帰」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

嘘、殺人で蕩滅復帰は不可能

神の摂理は真の愛による一体化の道

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。



漁師、大漁に驚く(ドレ画)

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

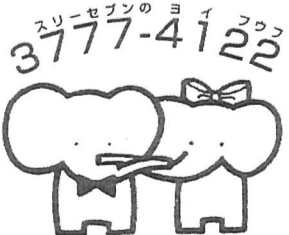
『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

『原理講論』に「モーセの復讐」は、努力と犠牲を尽くす結果として集まるものであって、無理やり奪い取るものではないと決まっています。

快てきな暮らしの応援

ドライバー募集!



- 職種: ドライバー、助手、営業(女性)、アルバイトも可
- 給与: 20~50万円 助手、営業は別途に定める
- 待遇: 各種社会保険完備、団体生命保険、退職金制度
- 休暇: 賞与年2回、制服貸与、交通費全支給
- 勤務地: 有給、夏季、年末年始、慶弔特別
- 連絡先: 東京・埼玉・横浜・調布・名古屋
- 電話: ☎03-3777-4122 (担当 大谷)

全国の皆様の応募を心よりお待ちしております。

株式会社 ハッピー運輸倉庫

〒143-0026 東京都大田区西馬込1-2-12

